

# 膨らむ公共事業 過去最大級予算

## 13年度案 92.6兆円決定

### 生活保護費は削減

安倍政権は20日午後に臨時閣議を開き、2013年度政府予算案（一般会計）を決めた。総額は92.6兆円にふくらみ過去最大規模になった。社会保障で生活保護の水準を切り下げる一方、12年度補正予算に続いて公共事業を増やし、「人からコンクリート」への転換が進み始めた。

▼2面＝弱者に負担、6・7面＝財政再建見えず、9面＝建設業に熱気、35面＝就学援助は維持か

安倍政権の特徴がじわり		前年度比	予算額
生活が苦しい人	生活保護費	-670億円	2兆8224億円
子育て世帯	高校無償化の継続	-10億円	3950億円
お年寄り	年金	-275億円	1兆2564億円
企業	公共事業	+719億円	5兆2853億円
安全を守る組織	防衛関係費	+400億円	4兆7538億円
	海上保安庁	+33億円	1765億円

歳出（支出）の中身を見れば、7月の参院選をにらみつつ、安倍カラーがじわりと出てきている。まず、財政出動、金融緩和、成長戦略の3本の矢を

放つ経済政策「アベノミクス」のうち、財政出動で公共事業に12年度当初予算より16%増の5.3兆円を投じる。今月決めた12年度補正予算でも公共事業関係費4.7兆円があり、合わせると10兆円に達する。

安全保障も重視する。防衛費を12年度より400億円増やし、11年ぶりに増額した。

一方、弱い立場の人が削減のターゲットになった。生活保護費は高齢化などで受給者が増えるので12年度よりわずかに多い2.8兆円だが、生活保護の給付水準を引き下げ、保護費の伸びを670億円削る。

社会保障費全体では基礎年金の国庫負担2.6兆円を加えたため、10.4%増の29.1兆円になった。年金や医療などは、参院選をにらみ、削減のような大きな見直しを控えた。

今回の予算づくりでは歳出総額や借金を小さくみせるため、いろいろな仕掛けを施した。まず総額は過去最大だった12年度の92.9兆円（基礎年金の国庫負担2.6兆円を含む）を下回るようにみせた。

減らせたのは12年度補正で景気対策を約10兆円も盛り込んだからだ。その分、景気対策に備えて毎年積みこみ、「経済危機対応・地

域活性化予備費」の9100億円をやめ、歳出を少なくした。借金返済にあてる「国債費」で想定する利子も、近年の2%から1.8%に下げ、3千億円削る。

歳入（収入）では、麻生太郎財務相が税収より借金（新しい国債発行）を4年ぶりに少なくすると約束した。このため税収見通しを43.1兆円、借金を42.8兆円にして、借金に頼る割合を約46%にしてみせた。

だが、ここにもからくりがある。基礎年金負担分の2.6兆円も借金するのに、消費税増税で返すからと言って別枠にした。これを含めると借金額は当初予算で過去最大規模の45.4兆円になり、税収を上回る。

政権は2月下旬にも予算案を国会に提出する。成立は13年度に入った5月の連休前後の見通しで、いったん暫定予算を組むことになる。

（座小田英史）